



蟹江 憲史

かにえ・のりちか 専門は国際関係論、地球システムガバナンス。著書に「SDGs（持続可能な開発目標）」など。52歳。

子どもの頃の夢は、オリンピックに出ることだった。世界の精鋭が集まる場に自分も身を置いてみたい、そんな憧れを持っていた。選手としての出場は早々にあきらめたが、何らかの形で真剣勝負の素晴らしい舞台に関わることにはできるはずだ。そう思い続けてきた。

大学時代に寮の同部屋で過ごした後輩がシドニー五輪への出場を決めると、当時の仲間と現地へ応援に行った。身近な後輩の出場に胸を躍らせたのはもちろん、五輪の魅力にあふれたホスト都市の躍動に感動し、

スポーツがもたらす影響力の大きさに改めて感じ入った。

五輪に関わるとしたら、ボランティアはその一つだろうし、大会関係者や役員という道もあるかもしれない。そんなチャンスが、思わぬ形で巡ってきた。2016年、東京五輪・パラリンピックの影響調査が行われると聞き、その公募に手を挙げた。提案したのは、貧困や格差、気候危機といった人類の未来を危ぶむ諸課題の解決を目指す「持続可能な開発目標（SDGs）」にどこまで近づいているかという観点から大会の

影響を測るといふものだった。幸運なことに公募を勝ち抜き、大会終了後まで7年に及ぶ調査を行うことになった。私にとつては五輪の夢に近づいた瞬間であり、興奮した。ただ残念なことに17年初め、国際オリンピック委員会（IOC）から調査の中止が示された。

影響を測るといふものだった。幸連なことに公募を勝ち抜き、大会終了後まで7年に及ぶ調査を行うことになった。私にとつては五輪の夢に近づいた瞬間であり、興奮した。ただ残念なことに17年初め、国際オリンピック委員会（IOC）から調査の中止が示された。

五輪を問うSDGsの視点

影響を測るといふものだった。幸連なことに公募を勝ち抜き、大会終了後まで7年に及ぶ調査を行うことになった。私にとつては五輪の夢に近づいた瞬間であり、興奮した。ただ残念なことに17年初め、国際オリンピック委員会（IOC）から調査の中止が示された。

影響を測るといふものだった。幸連なことに公募を勝ち抜き、大会終了後まで7年に及ぶ調査を行うことになった。私にとつては五輪の夢に近づいた瞬間であり、興奮した。ただ残念なことに17年初め、国際オリンピック委員会（IOC）から調査の中止が示された。

影響を測るといふものだった。幸連なことに公募を勝ち抜き、大会終了後まで7年に及ぶ調査を行うことになった。私にとつては五輪の夢に近づいた瞬間であり、興奮した。ただ残念なことに17年初め、国際オリンピック委員会（IOC）から調査の中止が示された。

影響を測るといふものだった。幸連なことに公募を勝ち抜き、大会終了後まで7年に及ぶ調査を行うことになった。私にとつては五輪の夢に近づいた瞬間であり、興奮した。ただ残念なことに17年初め、国際オリンピック委員会（IOC）から調査の中止が示された。

新型コロナ

東京五輪